長崎県感染症情報センター

# 長崎県感染症発生動向調査速報

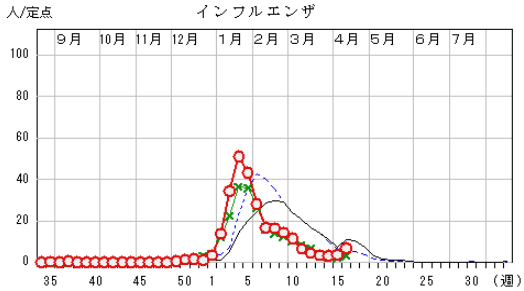
平成25年第16週　　平成25年４月15日（月）～平成25年４月21日（日）

## ☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

（１） インフルエンザ

第16週の報告数は478人で、前週より220人多く、 定点当たりの報告数は6.83であった。

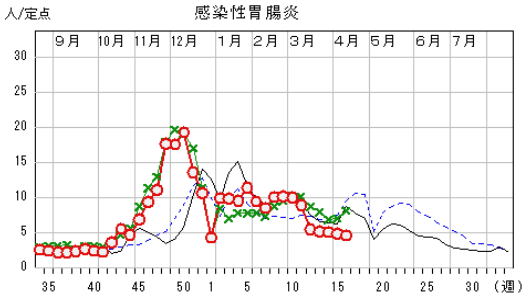
年齢別では、10～14歳（105人）、７歳（64人）、９歳（53人）の順に多かった。
保健所別の定点当たり報告数は、長崎市保健所（17.65）、対馬保健所（8.67）、西彼保健所（7.17）が多かった。




（２） 感染性胃腸炎

第16週の報告数は203人で、前週より9人少なく、 定点当たりの報告数は4.61であった。

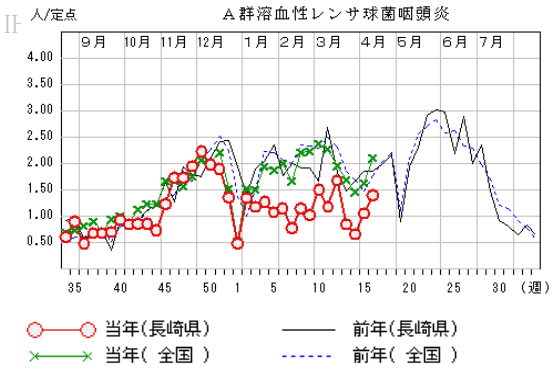
年齢別では、１歳（32人）、３歳（25人）、２歳（23人）の順に多かった。
保健所別の定点当たり報告数は、県央保健所（6.67）、県北保健所（6.33）、佐世保市保健所（5.83）が多かった。




（３） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第16週の報告数は61人で、前週より15人多く、 定点当たりの報告数は1.39であった。

年齢別では、４歳（10人）、２歳（7人）、５歳（7人）の順に多かった。
保健所別の定点当たり報告数は、西彼保健所（3.75）、県北保健所（3.67）、県央保健所（2.17）が多かった。




## ☆トピックス・季節情報

【インフルエンザ】
長崎県における第16週の報告数は478人で、前週より220人増加して定点当たりの人数(6.83)も全国定点当たりの人数（2.89）を大きく上回りました。4月上旬に県下全域で終息基準値「10」以下となり終息に向かっていましたが、新学期が始まって報告数の増加がみられ、長崎市（17.65）では再び注意報レベルを超えましたので、油断は禁物です。
暖かい日が続き、すっかり春めいてまいりましたが、花冷えのする日もあるようですので、体調管理に十分気をつけましょう。またゴールデンウィークを目前に人ごみに入る機会が多くなりますので外出からの帰宅時にはうがい、手洗いの励行、マスクなどによる「咳エチケット」で積極的な感染防止に努めましょう。
罹患した際には有効な抗インフルエンザ薬がありますので、体調に異変を感じたら早めに受診しましょう。

【感染性胃腸炎】
第16週の感染性胃腸炎の報告数は203人で、前週より9人減少し、定点当たりの人数（4.61）も全国定点当たりの人数（8.10）以下でした。県下全域から報告がありますが、全体的には流行のピークは過ぎ、終息に向かう状況で推移しています。
感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くは1～2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

原因微生物のうち、ロタウイルスについては2011年7月にワクチンが製造承認され、2012年7月には国内2製品目が発売されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に、小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】
長崎県における第16週の報告数は61人で、前週より15人増加しましたが、定点当たりの人数（1.39）は、全国定点当たりの人数（2.10）を下回っています。壱岐地区や上五島地区を除く地域から報告があり、西彼地区（3.75）と県北地区（3.67）が他の地域に比べ患者報告数が多いようです。
本感染症の好発年齢は5～15歳で、鼻汁・唾液中のA群溶血性レンサ球菌の飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1～4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により多くは1～2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早期に医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

## ☆トピックス：長崎県内で2例目の重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生が新たに確認されました。

◎今年、1月30日に、国内発生例としては初めてダニ媒介性のウイルス感染症「重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome：SFTS）」の山口県における患者発生および死亡例が報告されました。その後、各地から確認症例の報告が相次ぎ、長崎県でも平成17年(2005年)の症例2件が確認されました。
国内での患者報告を受けて、SFTSの発生を予防し、そのまん延の防止を図るため、平成25年2月22日付の法改正に基づき、平成25年3月4日から感染症法上の4類感染症に指定されました。

**＜感染予防について＞**
◎感染源とされているマダニは全国に分布しており、主に森林や草地のほか市街地周辺でも見られ、春から秋にかけて接触する機会が増えることから、感染予防が最も大切です。今のところ、有効な抗ウイルス剤やワクチンはありません。

◎行楽やハイキング、農作業など、ダニとの接触が多くなる季節となりますので、野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。
もし、ダニに咬まれていたことに気づいた場合は、自分で無理に取ろうとせず、医療機関で取り除いてもらいましょう。

◎マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

◎多くの場合、SFTSウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染するといわれていますので、インフルエンザのように人から人へ感染して広がるものでないとされています。

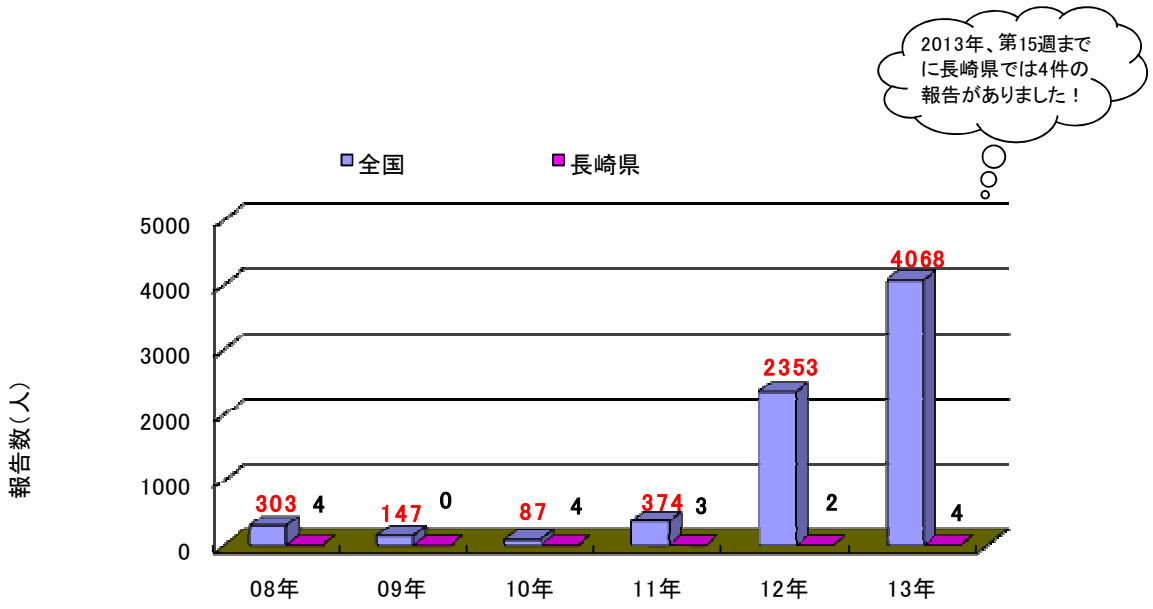
**＜重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について＞**

**(参考)厚生労働省ホームページ(重症熱性血小板減少症候群について)**

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts.html

## ☆トピックス：昨年に引き続き風しんが増加しています。

昨年から風しんの患者数が他府県で増加しており、長崎県にお住まいの方々にも再三注意喚起してまいりました。
厚生労働省は、今年に入ってからも風しんの患者数が増加し、「先天性風しん症候群」も5例（暫定値）報告されたことから、昨年5月、7月に続き、25年1月にも3度目の注意喚起がおこなわれています。
昨年の第15週の風しんの全国の累積数に比べ、今期の同時期では既に4,068人と患者が急増していますので注意が必要です。
風しんはせきやくしゃみなどの飛沫から感染し、通常は発疹や発熱が起こりますが軽微な症状で経過し、重篤化することはほとんどありません。しかしながら妊娠初期に感染すると、胎盤を経て胎児にも感染し、先天性の心疾患や難聴、白内障など（先天性風しん症候群：CRS）を引き起こす危険性がある恐ろしい感染症でもあります。
風しんやCRSは予防接種により予防可能ですが、妊婦へのワクチン接種は禁忌であるため、妊婦や妊娠希望者または妊娠する可能性の高い方にうつすことのないよう、パートナーや周囲の人は医師と十分相談の上、抗体検査やワクチンの接種を実施することが重要です。
**本県では今年に入ってから第15週までに、4件の報告がありました。今後の風しんの動向に注視して十分に注意しましょう。**




報告年（2008～2013年第15週まで）

全国と長崎県の風疹の報告数の推移

## ◆全数届出の感染症

１類感染症： 報告はありませんでした。
２類感染症： 結核患者、男性（70代・1名）と女性（70代・1名、80代・1名）計2名、
合計3名の報告がありました。
結核無症状病原体保有者、女性（30代・1名）の報告がありました。
３類感染症： 報告はありませんでした。
４類感染症： 報告はありませんでした。
５類感染症： 後天性免疫不全症候群患者、男性（30代・1名）の報告がありました。
梅毒患者、男性（30代・1名）の報告がありました。

## ◆定点把握の対象となる5類感染症

（1） 疾病別･週別発生状況 （第11～16週、3/11～4/21）

| 疾患名 | 定点当たり患者数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 11週 | 12週 | 13週 | 14週 | 15週 | 16週 |
| | 3/11～ | 3/18～ | 3/25～ | 4/1～ | 4/8～ | 4/15～ |
| インフルエンザ | 6.49 | 4.50 | 3.47 | 3.00 | 3.69 | 6.83 |
| ＲＳウイルス感染症 | 0.11 | 0.14 | 0.11 | 0.18 | 0.14 | 0.09 |
| 咽頭結膜熱 | 0.39 | 0.41 | 0.52 | 0.20 | 0.20 | 0.25 |
| Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎 | 1.18 | 1.68 | 0.84 | 0.66 | 1.05 | 1.39 |
| 感染性胃腸炎 | 8.89 | 5.45 | 5.18 | 5.07 | 4.82 | 4.61 |
| 水痘 | 0.73 | 1.68 | 1.16 | 1.57 | 0.89 | 1.11 |
| 手足口病 | 0.14 | 0.23 | 0.27 | 0.43 | 0.27 | 0.52 |
| 伝染性紅斑（リンゴ病） | | | | | 0.05 | 0.05 |
| 突発性発しん | 0.48 | 0.36 | 0.59 | 0.43 | 0.64 | 0.61 |
| 百日咳 | 0.02 | | 0.05 | | | 0.02 |
| ヘルパンギーナ | 0.23 | 0.32 | 0.52 | 0.52 | 0.68 | 0.45 |
| 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） | 0.66 | 0.50 | 0.50 | 0.64 | 0.36 | 0.39 |
| 急性出血性結膜炎 | 0.50 | 0.75 | 0.50 | 0.13 | 0.50 | 0.25 |
| 流行性角結膜炎 | 0.25 | 0.75 | 0.75 | 0.88 | 0.38 | 0.88 |
| 細菌性髄膜炎 | 0.08 | | | | | |
| 無菌性髄膜炎 | | | | | | |
| マイコプラズマ肺炎 | | 0.33 | 0.33 | 0.83 | 0.67 | 0.17 |
| ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く） | | | | | | |

（2） 疾病別･保健所管内別発生状況 （第16週、4/15～4/21）

| 疾患名 | 定点当たり患者数(県･保健所管轄別) | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 県 | 佐世保市 | 長崎市 | 壱岐 | 西彼 | 県央 | 県南 | 県北 | 五島 | 上五島 | 対馬 |
| インフルエンザ | 6.83 | 1.73 | 17.65 | | 7.17 | 4.30 | 3.50 | 1.00 | | 5.00 | 8.67 |
| ＲＳウイルス感染症 | 0.09 | 0.17 | 0.10 | | | | | | 0.25 | | 0.50 |
| 咽頭結膜熱 | 0.25 | 0.33 | | | | 0.83 | 0.60 | | 0.25 | | |
| Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎 | 1.39 | 0.67 | 1.10 | | 3.75 | 2.17 | 0.80 | 3.67 | 0.25 | | 1.00 |
| 感染性胃腸炎 | 4.61 | 5.83 | 4.10 | 1.00 | 3.00 | 6.67 | 3.60 | 6.33 | 5.00 | 5.50 | 2.50 |
| 水痘 | 1.11 | 0.67 | 1.30 | | 0.75 | 0.83 | 3.20 | 1.33 | 0.50 | 1.00 | |
| 手足口病 | 0.52 | 0.50 | 0.30 | | | 0.50 | 0.20 | 4.00 | 0.25 | | |
| 伝染性紅斑（リンゴ病） | 0.05 | | | | | | | 0.67 | | | |
| 突発性発しん | 0.61 | 0.33 | 0.60 | | 0.75 | 0.83 | 0.80 | 2.00 | | | 0.50 |
| 百日咳 | 0.02 | | 0.10 | | | | | | | | |
| ヘルパンギーナ | 0.45 | | 0.10 | | | 1.67 | 1.80 | | | | |
| 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） | 0.39 | | 0.30 | | | 1.50 | 0.60 | 0.67 | | | |
| 急性出血性結膜炎 | 0.25 | 2.00 | | | | | | | | | |
| 流行性角結膜炎 | 0.88 | 2.00 | | | 4.00 | 1.00 | | | | | |
| 細菌性髄膜炎 | | | | | | | | | | | |
| 無菌性髄膜炎 | | | | | | | | | | | |
| マイコプラズマ肺炎 | 0.17 | | | | | 2.00 | | | | | |
| ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く） | | | | | | | | | | | |